透析医のひとりごと

「「災害時透析医療ネットワーク」への思い」

奈倉勇爾

日本の災害は地震や津波，台風そしてゲリラ豪雨等毎年多く発生しております．調べてみると，明治以後5,000人以上の死者を出した災害は5件ありますが，すべて地震やその後の津波によるものでした．また戦後1,000人以上の死者を出した災害は11件ありました．しかし地震によるものは，記憶に新しい1995年の阪神淡路大震災，2011年の東日本大震災と1946年に起きた昭和南海地震の3件で，他の8件は台風と豪雨による水害によるものでした．

私が10年以上携わってまいりました東京西部・埼玉南西部災害時透析医療ネットワーク（災害ネット）について，少しお話をさせていただきたいと思います．

阪神淡路大震災が起きた時，その衝撃は計り知れないものでした．こんな大地震が起きた時何ができるんだろう，何をすべきなんだろうと考えるのが精一杯だった気がします．今思えば気がかりではありましたが，切実には感じていなかったことは歪めないところです．その思いを災害ネットの実現に向け動かしてくれる地震が起きてしまいました．2004年の中越大地震です．この地域の地震対策は絶対必要だと認識させられたのです．

では，災害ネットを作るにはどうすればスムーズに構築できるのかと考えたとき，医者は透析患者さんの災害による身体的・心理的被害状況を確認し的確な対応をしなければならないだろう．看護師は医師の指示に従い患者へのケアをし見守らなければならない．受災時に積極的に参加する機運が高く行動してもらえるのは，若く機敏でコンピューターにも明るい技士の人達だと気づきました．

それで，地域の技士さんや災害対策に前向きな看護師さんなどの方々に幹事として参加していただき，災害ネットを作り上げていく事にしました．地域は東京都城北4区（板橋区・練馬区・豊島区・北区）および埼玉県南西部（和光市・朝霞市・新座市・志木市・富士見市・三芳町・ふじみ野市・川越市・所沢市）とし，突然発災した色々な災害時の透析医療を円滑に行うために，どうしたらいいのかを皆で勉強し協議していきました．

まず地域の透析従事スタッフの方々に災害時の透析医療に関する知識の普及，災害時透析技術の向上，施設間の情報交換方法や，安定的な透析を行うための医薬品や医療材料の確保と供給を行うことを目的としました．

そのため，年2回の情報収集訓練を行うこと，日本透析医会災害ネットワークに参加させていただくこととホームページの立ち上げ，医薬品や医療材料の卸業者さんとの連携，行政との関係構築などを行うことと

いたしました．それらの過程や結果，成果などは日本透析医学会や地域で開催される勉強会や研究会に報告していくことにいたしました．その後，鳥インフルエンザや東日本大震災，大豪雪など多くの経験をしてまいりました．変遷はありましたが災害ネットは少しずつ進歩してまいりました．

この地域ではいわゆる東京直下型地震の発生が危惧される中，どう活動するのかを考えた時，甚大な被害が予想される東京西北部から避難せざるをえない透析患者さんが，荒川や多摩川などの大河もない埼玉南西部を目指される事が予想されます．そうすると，おのずと地域の役割がみえてくるのではないかと想像されます．かといって埼玉県に地震が起きないわけではないのです．浦和活断層群や立川断層など，いつ起きるかわかりません．そのため患者さんを受け入れることと送り出すことの両方の対策が必要になることになります．

平成26年豪雪を契機として，埼玉県では，以前より取り組んでいるEMIS（広域災害救急医療情報システム）に透析関連施設が参加することになりました．また「透析医療を考える会埼玉」が連絡方法としてMCA無線を活用することになりましたので，当災害ネットとしても参加させていただくこととし，私の所属する志木駅前クリニックと，東京都の拠点として練馬区高松病院にMCA無線を常備し，現在年4回の全県と地域の訓練を行っています．

さて，昨今の医療・医薬品業界などの協力が得られなくなってきました．そのため，従来の活動手法や内容を継続・維持することが困難となってまいりました．今後も災害ネットの活動を継続し定期化するためには何かいい方法はないかと試行錯誤した結果，災害ネットの下部組織として2016年「災害時透析医療連携研究会」を立ち上げることとしました．この研究会は災害時の連携を今まで以上にスムーズに行うために，年1回の講演や勉強会を中心に新たな啓蒙活動と位置づけしました．2018年5月に第3回の研究会を開催する準備を進めております．

今後も災害ネットは主に東京直下型地震の発生を想定してはおりますが，それ以外にも鳥インフルエンザや既知・未知の感染症によるパンデミック，雪害や火山噴火，ゲリラ豪雨等あらゆる地域や近隣の災害に対する活動を行っていく予定でおります．これらで得られた情報は災害ネットに参加されている方々ばかりでなく広く皆様に還元してまいります．

しかし，このような私的なボランティア団体が行う災害ネットにはいろいろな問題点や課題・制約を抱えており，それを整理し実行に移すには時間がかかるし，経済的にもいずれ存続の危機に陥るものと思います．そうは言っても進歩を止めるわけにはいきません．現在取り組む課題として，我々は「自助・共助」の必要性についてスタッフや患者さんへ周知し，「施設内自助・共助」や「施設間共助」などの啓蒙活動や，当災害ネット内の居住患者さんが東京やネット外で被災されたいわゆる「帰宅困難者」への対策にも取り組んでいきたいと考えております．

今後も活動内容の紆余屈折はあるものと思いますが，できる限り継続してまいりたいと思います．

今日は「透析医のひとりごと」をまとまらない言葉と内容でお話ししました．自己満足なのかもしれませんがこれから起こるかもしれないし，起こらないかもしれない災害に少しでも役立てられればいいかなと感じている今日この頃です．

志木駅前クリニック（埼玉県）